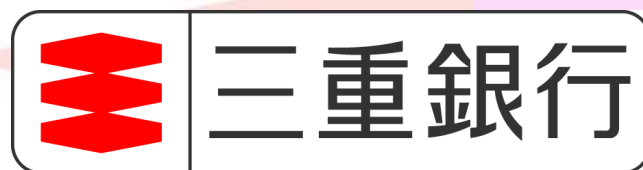


# 2015年9月中間期決算の状況と 中期経営計画の進捗について



2015年12月3日

## 目 次

### 2015年9月中間期決算の概要

	ページ
業績サマリー	… 2
通期業績予想	… 3
預貸金	… 4
有価証券運用	… 6
非金利収益	… 7
経費	… 8
信用コスト	… 9
不良債権	… 10
自己資本比率	… 11

### 中期経営計画「成長 ～地域とともに～」の進捗について

	ページ
中期経営計画「成長 ～地域とともに～」	
概要	… 13
組織戦略	… 14
法人戦略	… 15
個人戦略	… 17
計数計画	… 18
女性活躍の加速、地方創生	… 19
株主還元	… 20

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。これらの記述はリスクと不確実性を内包しており、将来の業績を保証するものではありません。将来の業績は経営環境に関する前提条件の変化等に伴い目標対比変化することにご留意下さい。本資料は、当行に関する理解を深めていただくための資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。

#### 【本件に関するご照会先】

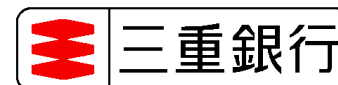
三重銀行 総合企画部 石原

TEL 059-354-7172 FAX 059-355-8225

E-mail [koho@miebank.co.jp](mailto:koho@miebank.co.jp)

# 2015年9月中間期決算の概要

# 業績サマリー



- 非金利収益の増加、経費の減少を主因に、コア業務純益は増益
- 信用コストが予想より少なく、経常利益、中間純利益は業績予想を上回る水準

(百万円)

<単 体>	15/9中間期 (15/上期)	前年同期比
コア業務粗利益	10,707	▲ 380
資金利益	8,282	▲ 565
うち貸金利息収入	7,496	▲ 398
うち預金等利息支払(▲)	698	2
うち有価証券利息収入	1,926	▲ 220
非金利収益 ※	2,425	185
経費(▲)	8,901	△ 492
コア業務純益	1,805	112

2期連続増益

有価証券関係損益	453	▲ 359
信用コスト(▲)	△ 243	△ 79
経常利益	3,035	▲ 137
中間純利益	2,079	▲ 162

当初業績予想

2,400

1,600

(百万円)

<連 結>	15/9中間期 (15/上期)	前年同期比
経常利益	3,344	335
中間純利益	2,141	▲ 561

2,600

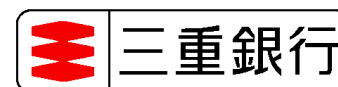
1,700

資金利益 前年同期比 ▲565百万円			
	ボリューム要因	利回要因	計
貸出金	(+436億円) +2.5億円	(▲0.10p) ▲6.5億円	▲4.0億円
預金等	(+528億円) ▲0.2億円	(△0.00p) △0.2億円	▲0.0億円
有価証券	(+59億円) +0.3億円	(▲0.12p) ▲2.3億円	▲2.0億円

有価証券関係損益 前年同期比 ▲359百万円 (百万円)				
	債 券	前年 同期比	株式等	前年 同期比
売却益	323	▲273	249	▲36
売却・償還損	▲119	▲57	—	△6
償却(減損)	—	—	—	—
計	203	▲331	249	▲30

※非金利収益=コア業務粗利益 - 資金利益  
(▲: 損益にマイナス、△: 損益にプラス)

# 通期業績予想



- 非金利収益増強により、コア業務純益、経常利益は増益を計画
- 信用コストが期初計画より少なくなることが予想されるため、経常利益、当期純利益の計画を上方修正

(百万円)

〈単体〉	16/3期 業績予想 (修正後)		16/3期 業績予想 (当初)
	前期比		
経常収益	27,400	▲730	27,400
コア業務純益	3,900	+207	4,100
業務純益	4,200	▲325	4,300
経常利益	5,000	+213	4,500
当期純利益	3,100	▲81	2,900

(百万円)

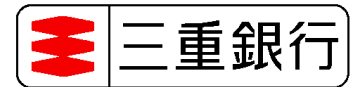
〈連結〉	16/3期 業績予想 (修正後)		16/3期 業績予想 (当初)
	前期比		
経常収益	32,900	▲402	32,900
経常利益	5,500	+395	5,000
当期純利益	3,300	▲591	3,100

## 16/3期 計画(単体)

(億円)

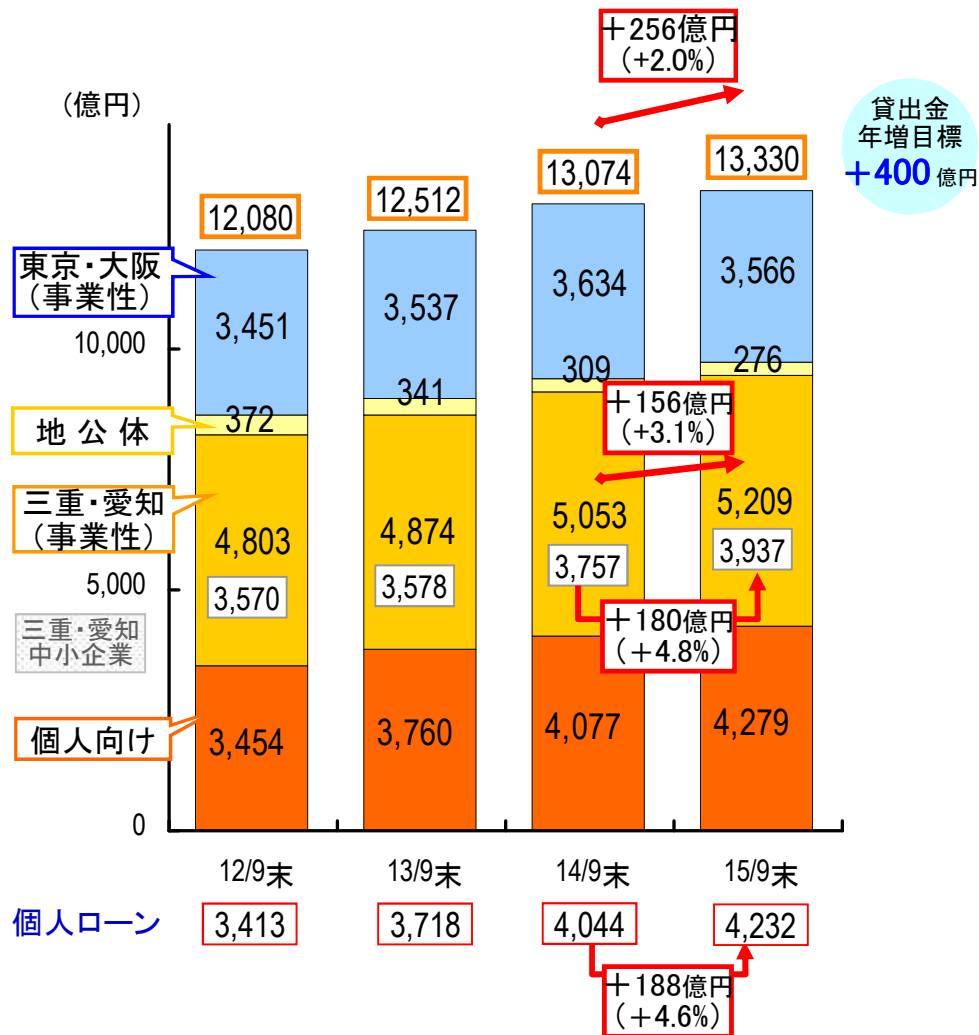
	16/3期 計画		15/上期	15/下期 計画
	前期比			
コア業務粗利益	218	▲3	107	111
資金利益	164	▲8	83	81
うち貸金利息収入	149	▲7	75	74
うち預金等利息支払(▲)	14	0	7	7
うち有価証券利息収入	37	▲2	19	18
非金利収益	54	5	24	30
経費(▲)	179	△5	89	90
<b>コア業務純益</b>	<b>39</b>	<b>2</b>	<b>18</b>	<b>21</b>
有価証券関係損益	5	▲3	5	0
信用コスト	0	△3	△2	▲2
<b>経常利益</b>	<b>50</b>	<b>2</b>	<b>30</b>	<b>20</b>
<b>当期純利益</b>	<b>31</b>	<b>▲1</b>	<b>21</b>	<b>10</b>

# 預貸金①

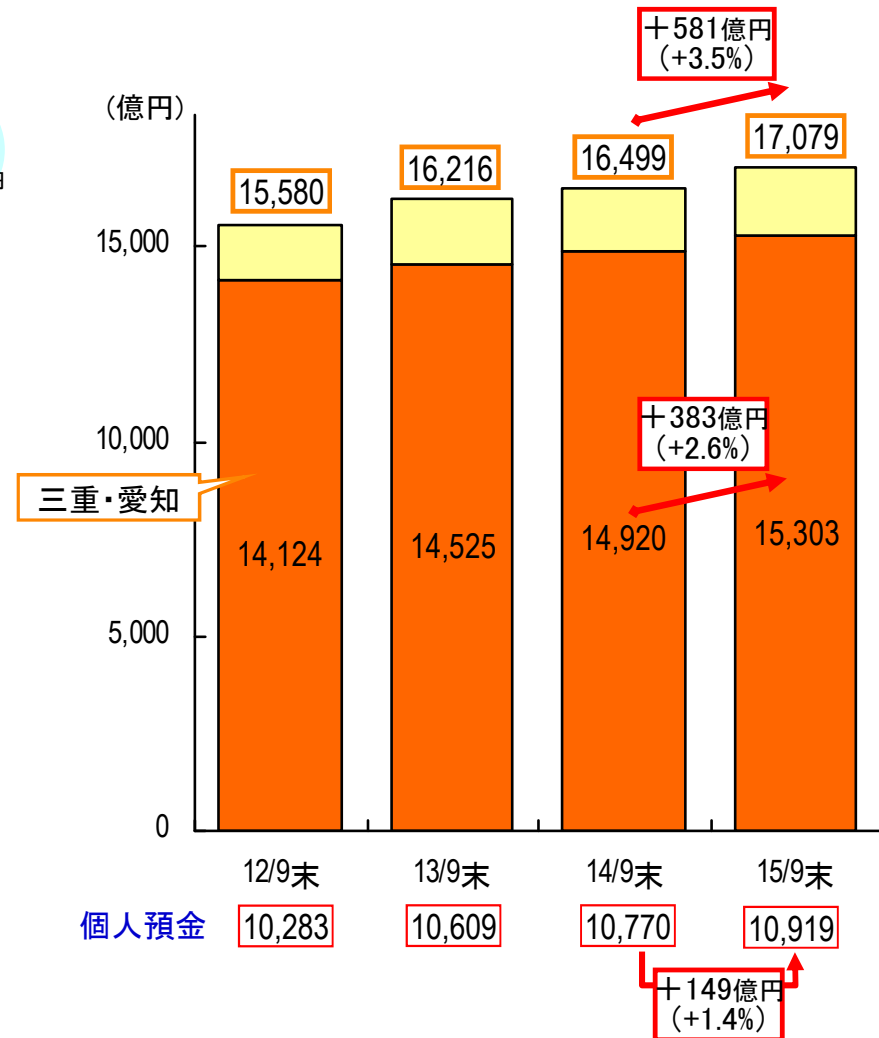


- 貸出金は、地元中小企業、個人ローンを中心に増加
- 預金は、個人、法人ともに着実に増加

■ 貸出金残高



■ 預金等残高

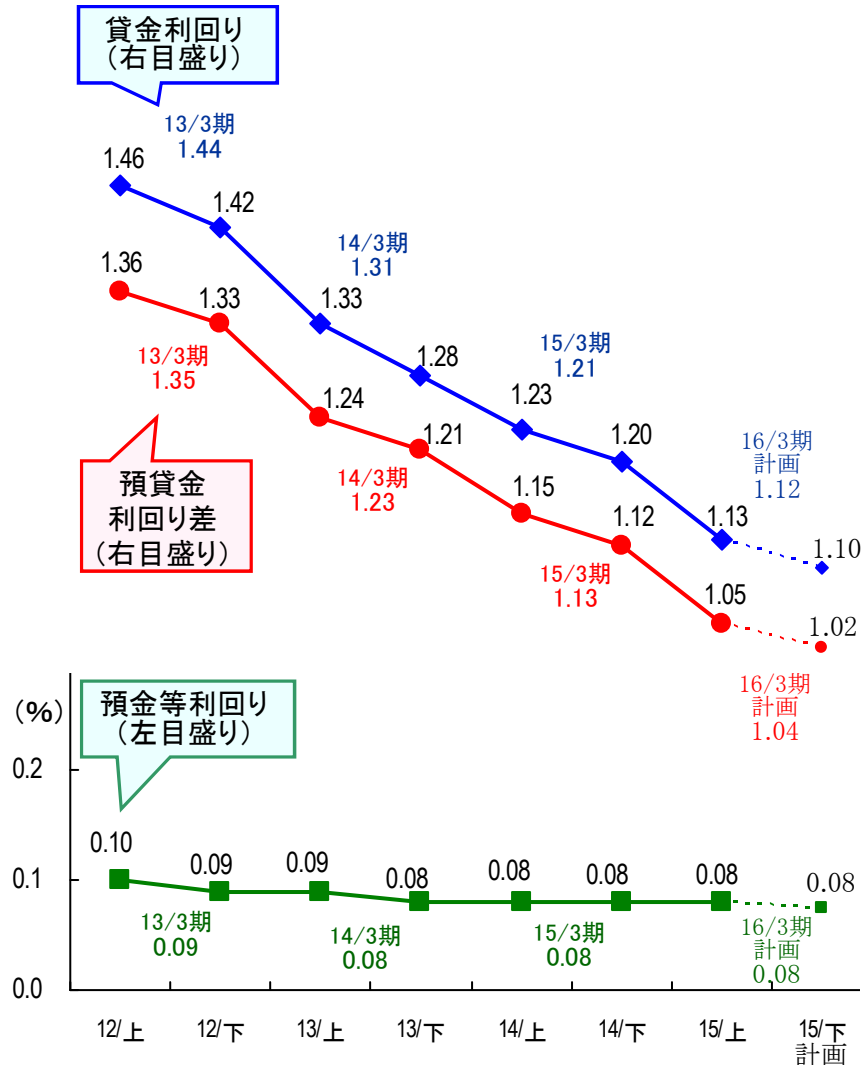


# 預貸金②

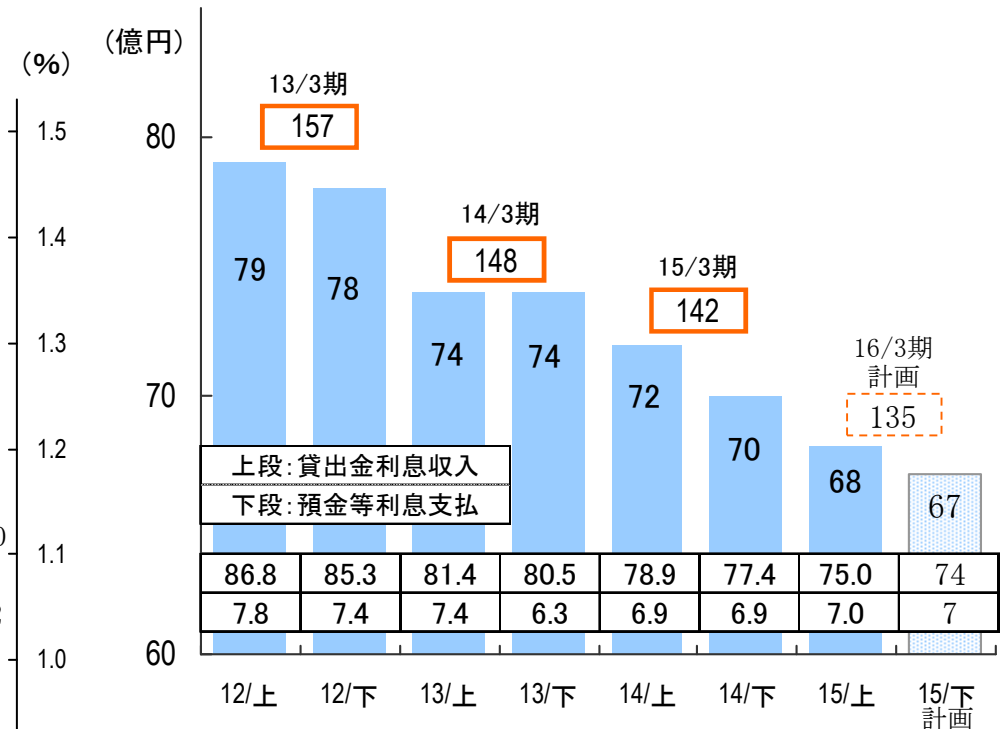


■ 無担保個人ローンの増強、地元小口貸金の増強により、貸金利回りの低下幅縮小を目指す

■ 預貸金利回り差



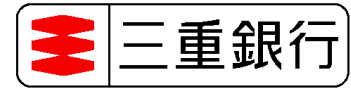
■ 預貸金利息収支



預貸金利息収支増減 内訳

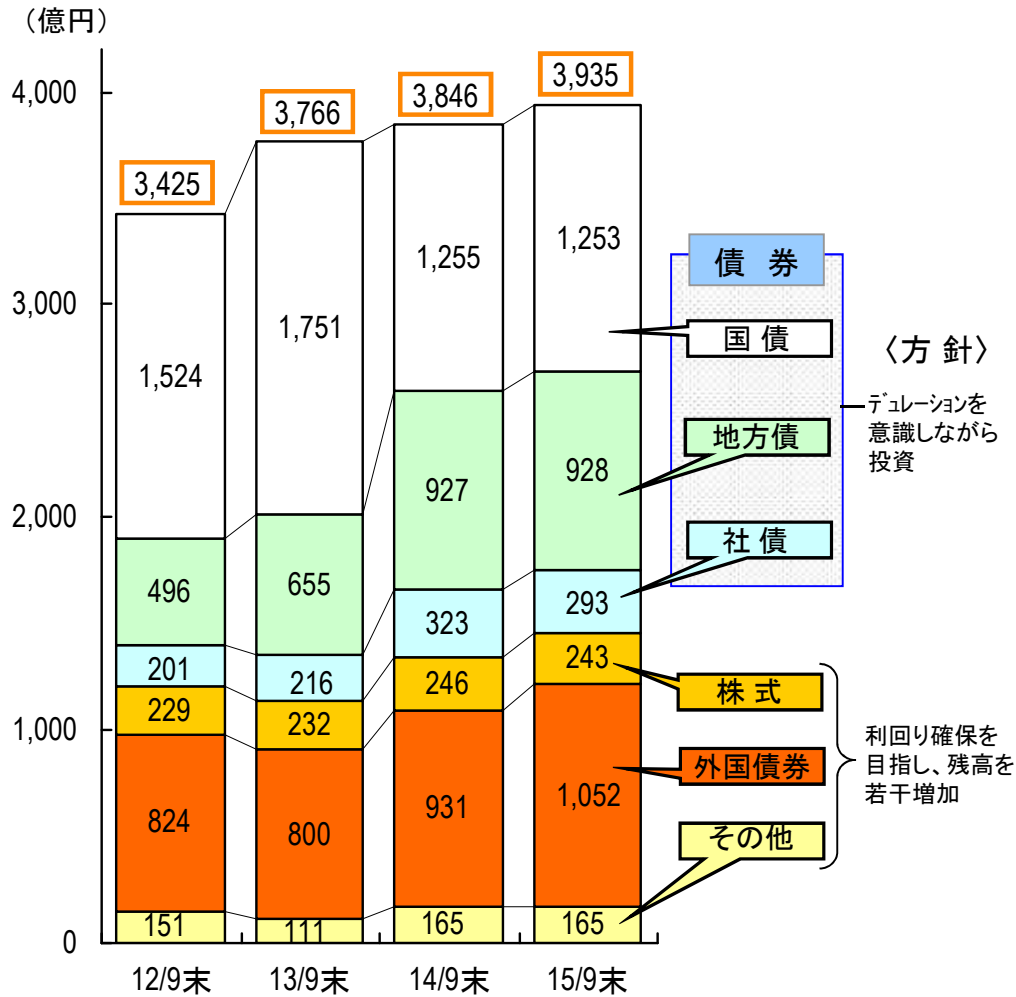
	13/3期→14/3期		14/3期→15/3期		15/3期→16/3期計画	
	貸金	預金	貸金	預金	貸金	預金
ボリューム要因	+6	▲1	+6	▲0	+5	▲0
利回り要因	▲16	△2	▲12	△0	▲13	△1

# 有価証券運用



■ 利回り確保を目指し、円建外債残高を若干増加させ、有価証券利息収入を維持

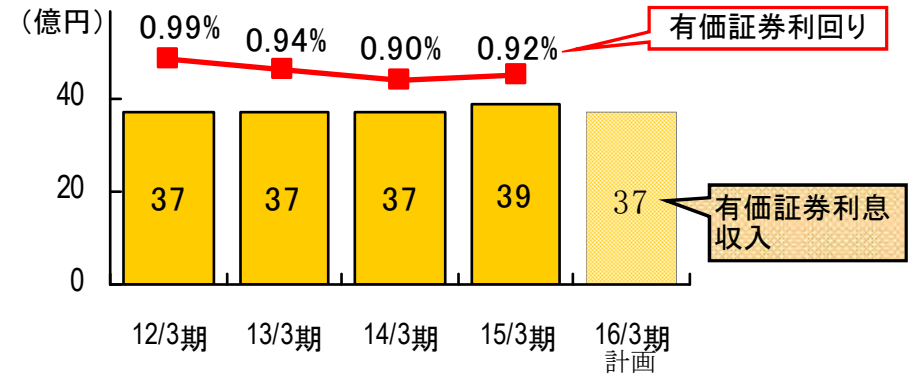
■ 有価証券残高（時価評価前簿価） ※私募債は除く



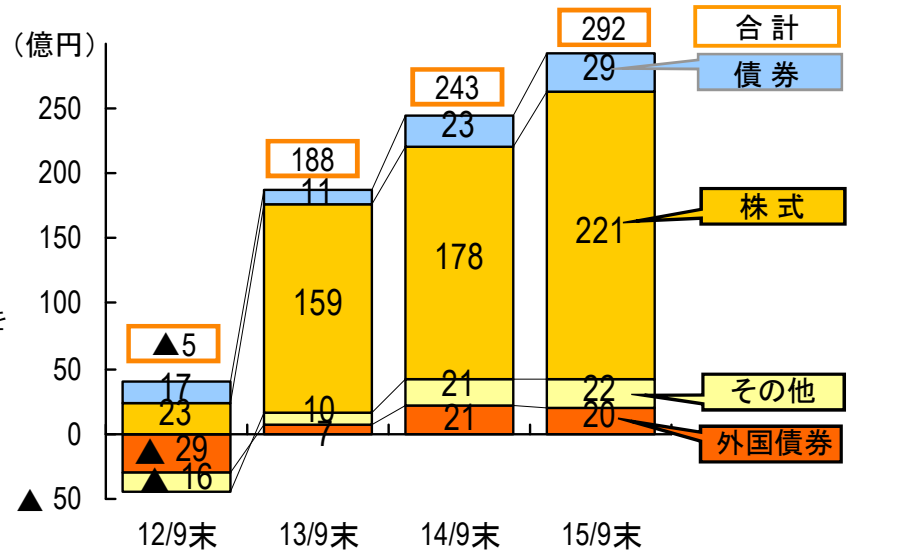
<3.6年> <3.4年> <3.9年> <3.9年> 債券デュレーション

〈方針〉  
デュレーションを意識しながら投資  
利回り確保を目指し、残高を若干増加

■ 有価証券利息収入・利回り



■ 有価証券評価損益



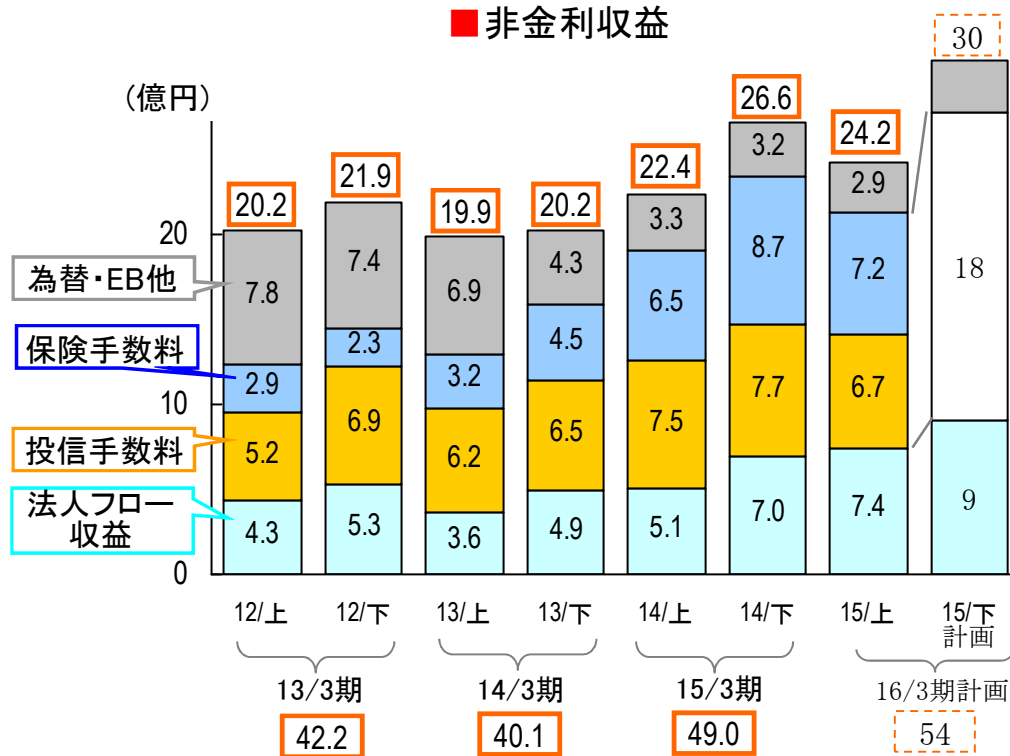
<8,870円> <14,455円> <16,173円> <17,388円> 日経平均株価



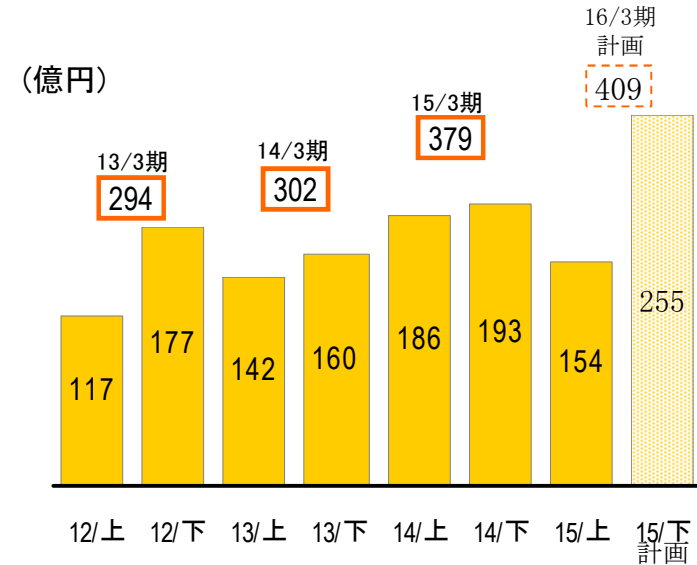
# 非金利収益

■ 安定的に非金利収益を計上 → 15/下期は大幅な非金利収益増加を目指す

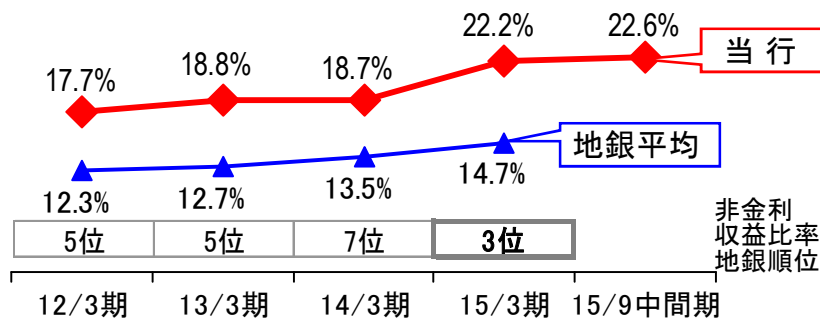
■ 非金利収益



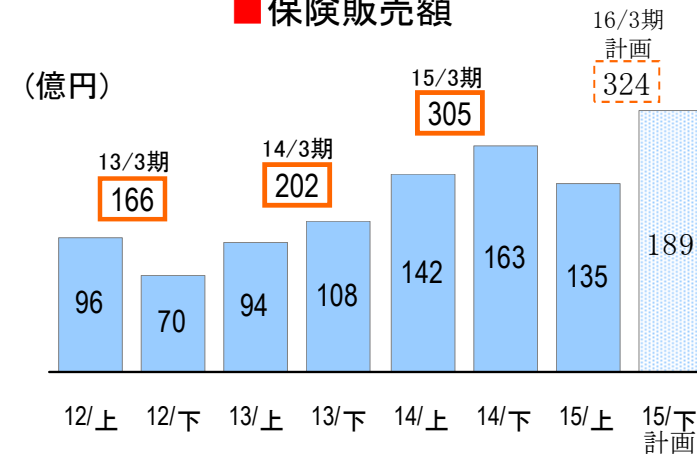
■ 投資信託販売額



■ 非金利収益比率 (非金利収益/コア業務粗利益)

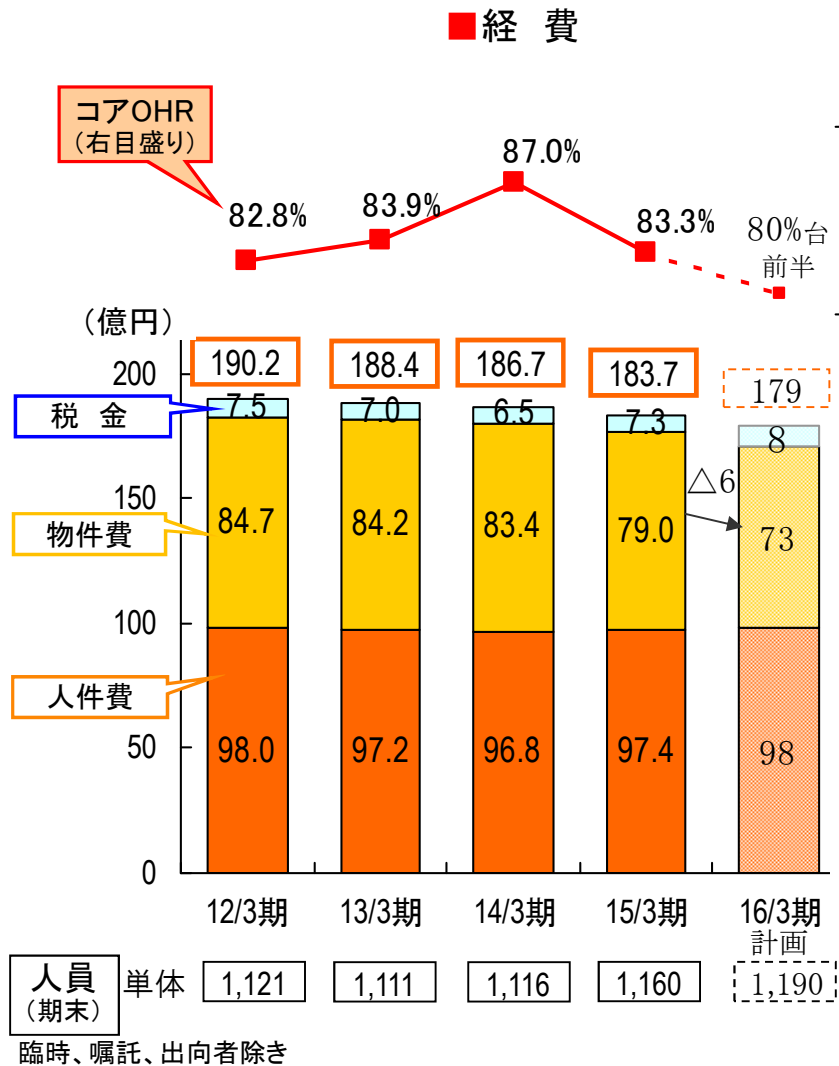


■ 保険販売額

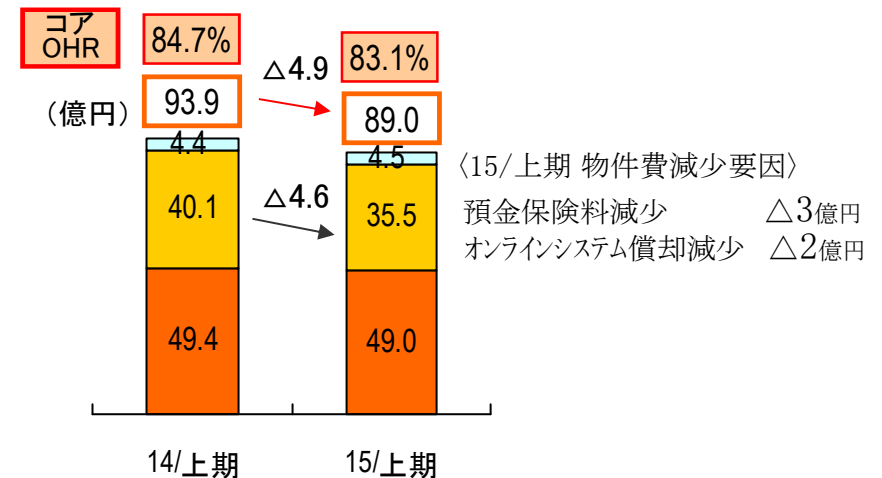


# 経費

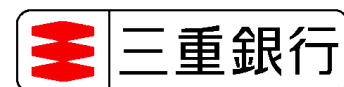
■ 預金保険料の減少やオンラインシステム償却の減少から、物件費が大きく減少



〈16/3期(計画) 物件費減少要因〉  
 預金保険料減少 △4億円  
 オンラインシステム償却減少 △5億円



# 信用コスト



- 15/上期の信用コストは新規発生が少なく戻入(前年同期比△1億円減少)
- 16/3期の信用コストはゼロと想定

## 信用コスト

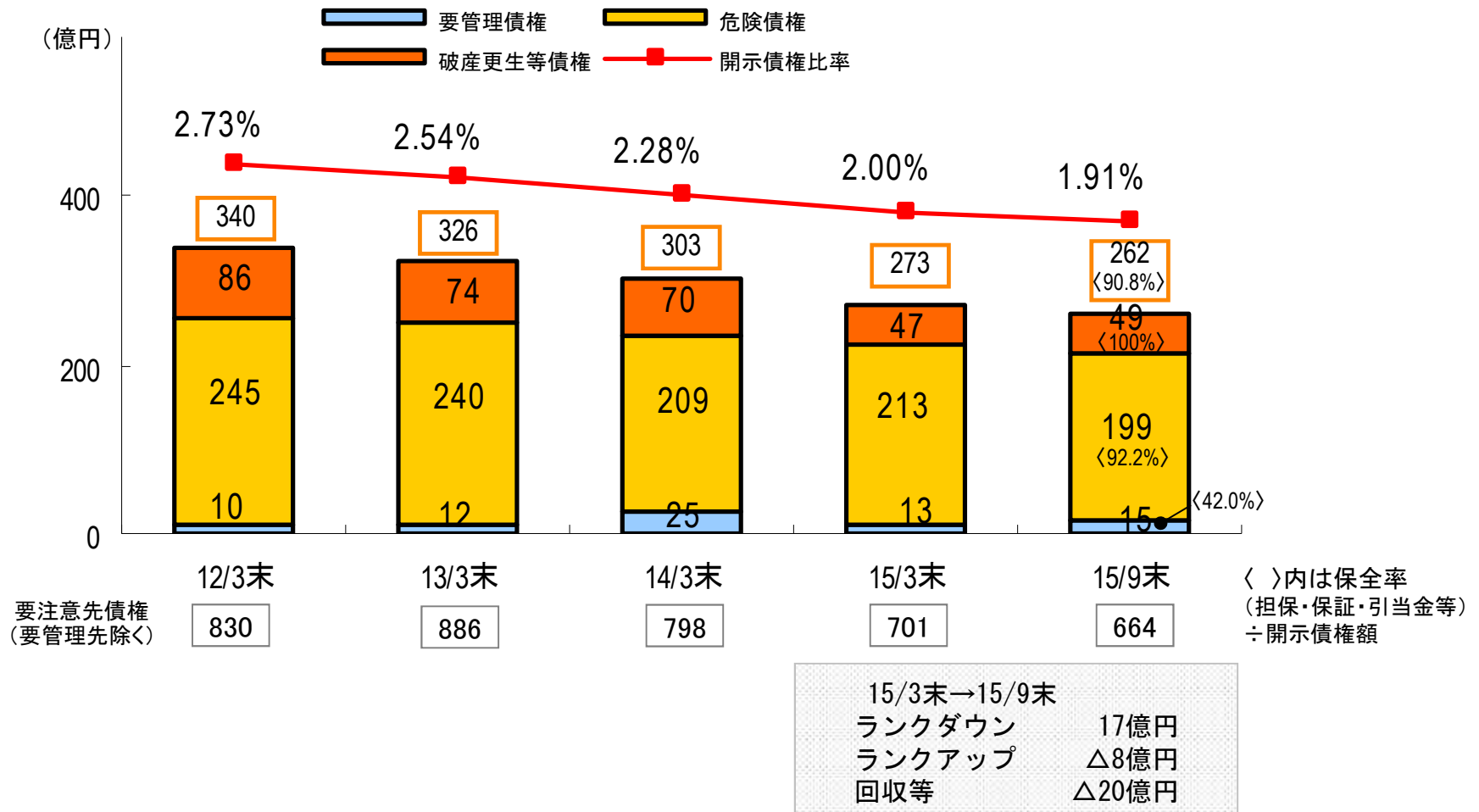
(百万円)

	12/3期	13/3期	14/3期	15/3期	15/上期	前年同期比	16/3期予想
個別貸倒引当金繰入	1,743	408	624	614	△ 50	△ 335	
新規発生	963	393	770	876	95	△ 196	
既存先増減・回収等	780	16	△ 146	△ 262	△ 145	△ 139	
償却・債権売却等	26	2	44	7	0	△ 2	
不良債権処理額①	1,769	411	668	621	△ 50	△ 337	
一般貸倒引当金繰入②	△ 676	△ 141	△ 88	△ 332	△ 165	▲ 285	
償却債権取立益③	-	145	0	6	26	24	
信用コスト④(=①+②-③)	1,092	124	580	282	△ 243	△ 79	0
貸出金平残(億円)⑤	11,548	11,917	12,358	12,884	13,223	436	
信用コスト率 ④/⑤	0.10%	0.01%	0.05%	0.02%	△0.04%	△0.01p	0.00%

# 不良債権

■ 金融再生法開示債権比率は1%台まで低下

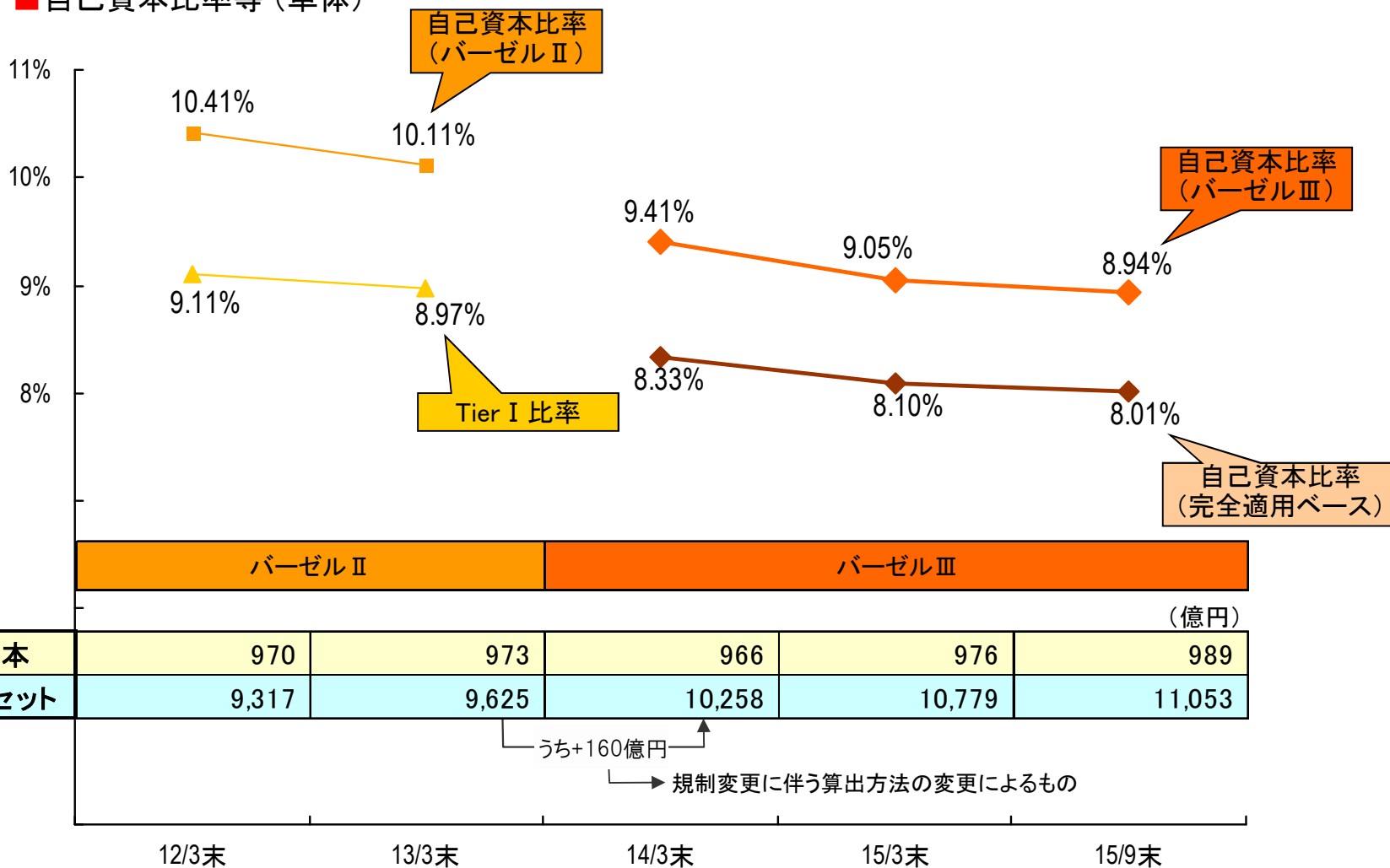
■ 金融再生法開示債権額・比率



# 自己資本比率

利益の積上げ、リスクアセットのコントロールにより、自己資本比率の安定的な上昇を目指す

■ 自己資本比率等 (単体)



# 中期経営計画

## 「成長 ～地域とともに～」 の進捗について

中期経営計画

## 成長 ～地域とともに～

2015年4月～2018年3月

目指す姿

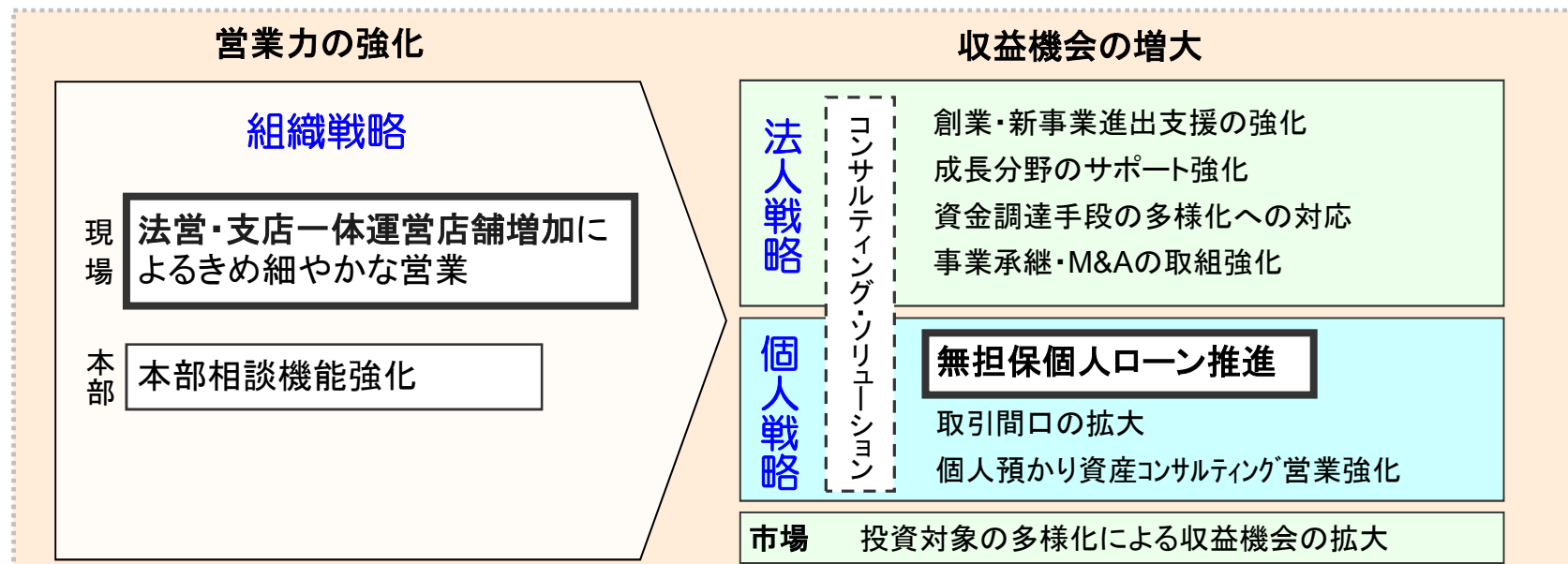
地元で確固たる存在感を示し、成長し続ける銀行

重点

持続的成長に  
不可欠な  
間口の拡大

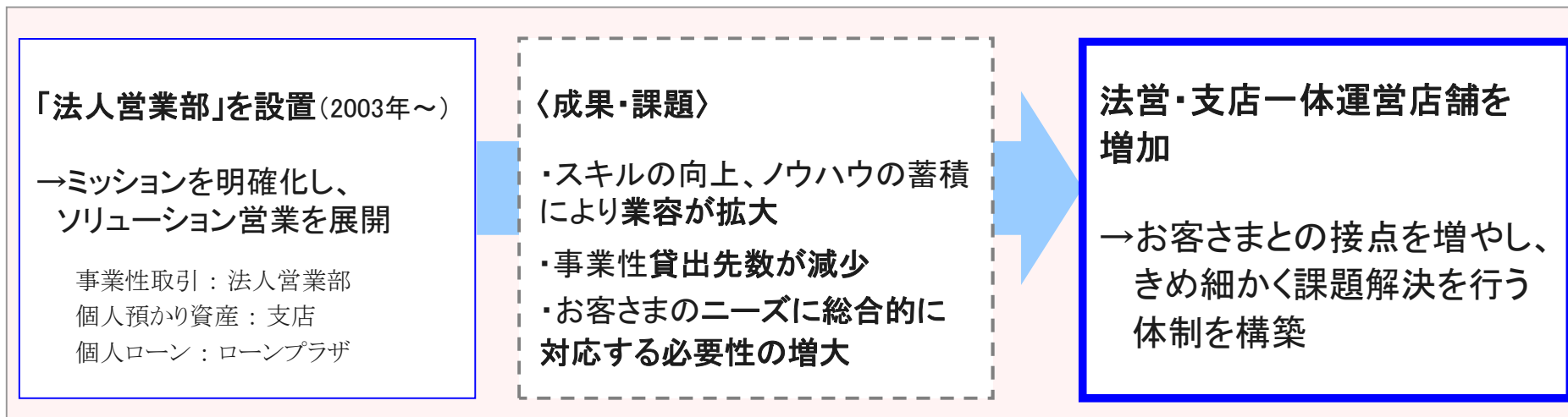
トップライン  
収益の増強

### ■ 成長戦略



■ お客さまとの接点を増やし、きめ細かく課題解決を行う体制を構築

■ 営業体制の変遷



■ 業容の変化(10年間)

年/月	2015/3末	10年前との比較			2015/9末
		増減額	増減率	地銀平均	
貸出金	13,264	+4,643	+54%	+27%	13,330
個人ローン	4,174	+2,677	2.8倍		4,232
中小企業	4,889	+1,008	+26%		4,866
預金等	16,992	+4,723	+39%	+32%	17,079
個人預かり資産	14,252	+4,530	+47%		14,274

(億円)

■ 拠点数の推移

年/月	2005/3	09/4	12/4	15/12
支店(有人店舗)	73	73	73	74
法人営業部	20	21	26	36
うち法営・支店一体運営	2	3	11	27

(箇所)

全支店で法人対応をできる体制(フルバンキング化)を18/3末までに構築

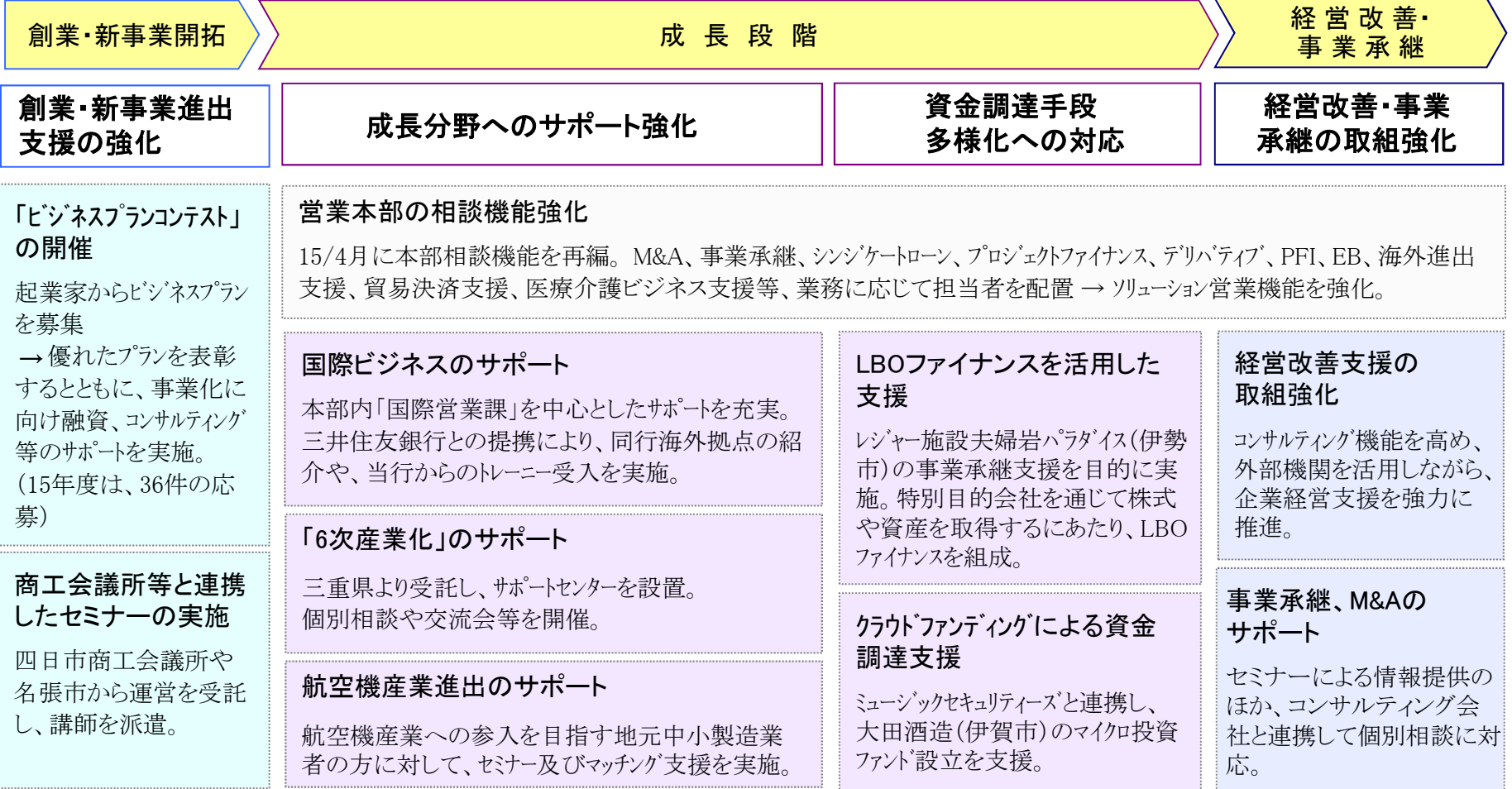


- 取引先のライフステージに応じた課題解決策を提案
- 資金調達手段の多様化に対し、高度な金融サービスにも対応

きめ細やかなソリューション営業の展開

■ ライフステージ等に応じたソリューション

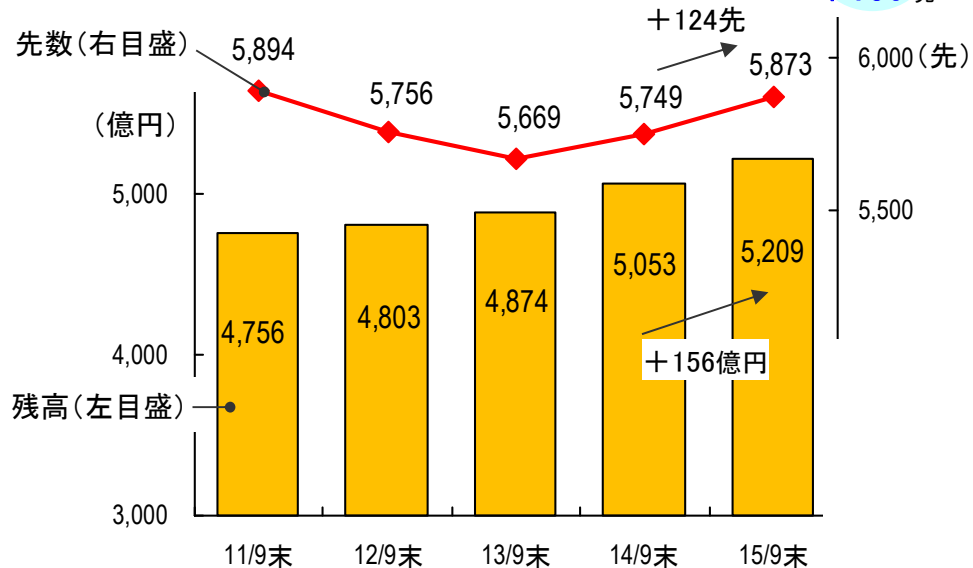
ライフ  
ステージ



- 地元事業性貸出先数を着実に増加させ、事業性貸金を増強
- 手数料を加味した収益性を追求

■ 三重・愛知 事業性貸出 先数・残高

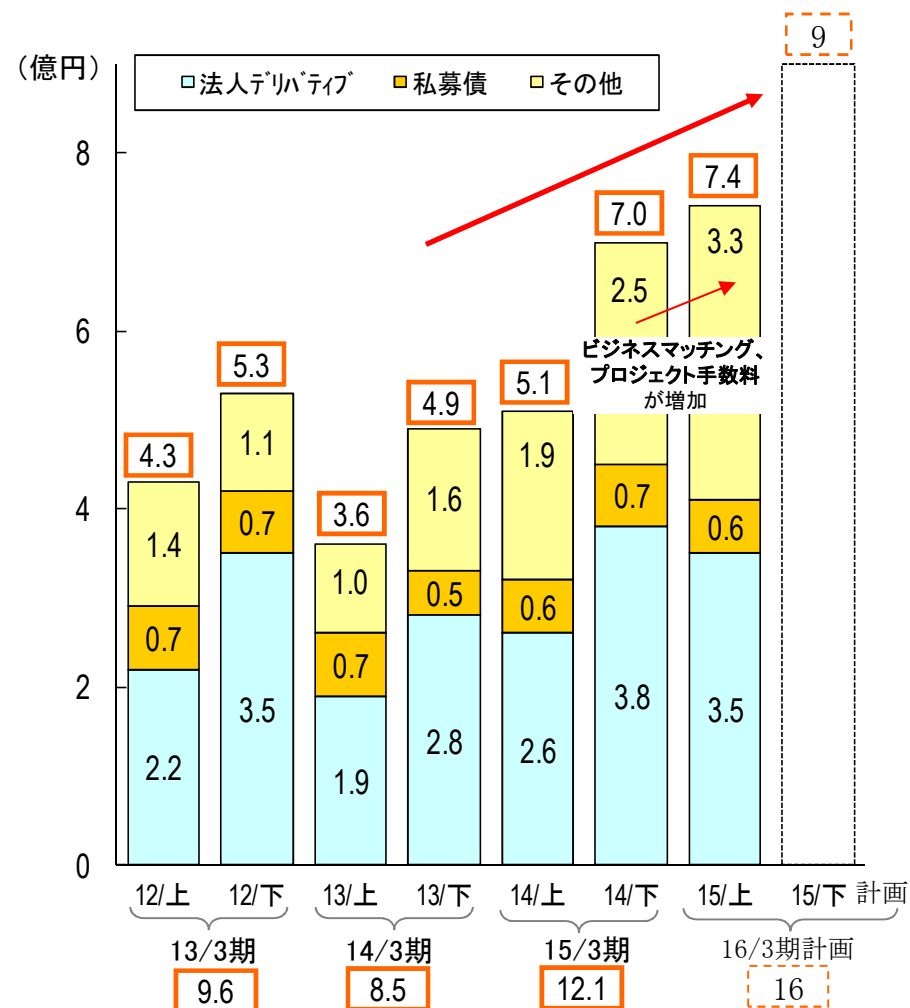
地元事業性貸出先数 年増目標 **+150** 先



〈14/9末→15/9末 +156億円 主な増加内訳〉

不動産業	+137億円	地元個人貸家業向け融資が増加。優良案件の取組みに注力。
電気・ガス・熱供給・水道	+22億円	太陽光発電設備等の需要に対応。
医療・介護	+21億円	本部相談体制を充実させ、診療所・介護施設等の案件を積極推進。

■ 法人フロー収益



■ 無担保個人ローンを住宅ローンと並ぶ柱として増強

個人ローンの推進

ローンプラザを中心とした住宅ローンの取込 + 無担保個人ローンの増強 (カードローン、フリーローン)

■ 無担保個人ローン 強化策

ローン統括部の設置	個人ローンの推進体制を強化
プロモーションの強化	電車扉等への広告、コマーシャルを展開 ATMコーナーへの掲示
キャンペーンの拡充	マイカーローン 金利優遇幅拡大、保証料引下げ カードローン QUOカードプレゼント
商品ラインアップの拡充	フリーローン「Premium」(15/4月取扱開始) 事業者向けフリーローン「クイック」(15/7月取扱開始)

■ 個人ローン残高

(億円)

	12/9末	13/9末	14/9末	15/9末	前年比
個人ローン	3,413	3,718	4,044	4,232	188
住宅ローン※	3,364	3,667	3,992	4,172	180
うち三重	1,630	1,696	1,755	1,797	42
うち愛知	1,709	1,950	2,216	2,358	142
無担保個人ローン※	42	49	53	65	12

※無担保の住宅・リフォームローンを重複計上

無担保  
個人ローン  
年増目標 16/3期は  
**+50** 億円 **+25** 億円

預かり資産の増強

ロビーコンシェルジュの配置 … 支店業務全般(預かり資産、個人ローン等)に携わるスペシャリストとして職員を選抜

15/12月 18カ店 → 年 5カ店程度 増加予定

投資信託新商品の追加 … 15/4月以降12商品を追加 (債券型 2、株式型4、不動産投信型1、バランス型(ラップ型ファンド)3、単位型1、その他1)

「iPad」を活用した投信情報提供機能の強化 … 最新の投信保有情報を提供できる新システムの運用を開始

- 収益性、健全性を兼ね備えた水準として、5項目（ROE、自己資本比率（完全適用ベース）、コア業務純益、地元貸出金残高、個人預かり資産残高）について中期経営計画目標を設定

■ 中期経営計画 計数目標

	2015年 3月期 (スタート時)	2015年9月 中間期	2016年3月期 計画	2018年3月期 計画 (最終年度)	
ROE (自己資本利益率)	2.82%	3.73%	2%台後半	3%以上	→安定的に5%を上回る 水準を目指す
自己資本比率 (完全適用ベース)	8.10%	8.01%	8%台前半	8%台	
コア業務純益	37億円	18億円	39億円	50億円	
地元(三重・愛知) 貸出金末残	9,627億円	9,743億円	10,100億円	10,900億円	年間+400億円程度増加
個人預かり資産末残	14,252億円	14,274億円	14,900億円	16,350億円	年間+700億円程度増加

■ 「女性活躍の加速」、「地方創生の取組み」を通じて、地元で確固たる存在感を示す

## 女性活躍の加速

### 女性職員の活躍を加速し、競争力を強化

- ・「プロジェクトチーム」を設置し、能力開発機会を提案
- ・指導的立場の職員のうち、女性の割合を10%→20%へ引上げ  
15/4月 10.7% → 15/10月 15.5%
- ・東海三県で初めて「プラチナくるみん」を取得



#### <「プラチナくるみん」認定基準(一部抜粋)>

- ・配偶者が出産した男性労働者に占める育児休業等を取得した者の割合が13%以上 ……当行は17%
- ・出産した女性労働者のうち、子の1歳誕生日まで継続して在職している者の割合が90%以上
- ・女性労働者が就業を継続し、活躍できるよう、能力の向上やキャリア形成の支援のための取組みを実施



## 地方創生への取組み

### 自治体の総合戦略策定のサポート

+

地方銀行としての「コーディネート力」を活かして地域資源を活性化  
地域の特産品・観光資源の活用促進、商店街の活性化、創業・成長業種支援等



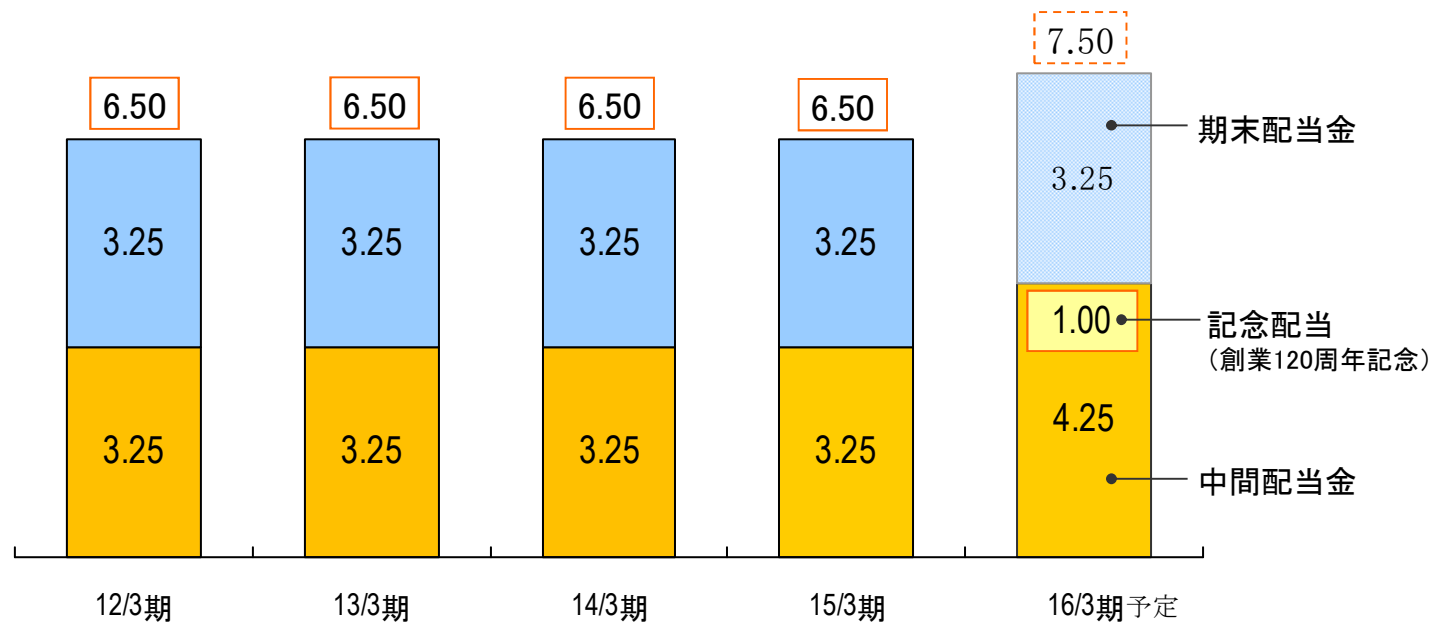
#### 「伊勢志摩サミット」(2016年5月開催)を応援する取組み

- ・「伊勢志摩サミット」関連のインフラ整備等を支援する融資商品の取扱い
- ・グループ会社が運営するインターネットポータルサイトを通じた三重県の製品のPR
- ・営業店で「伊勢志摩サミット」までの日数をカウントダウン表示



■ 16/3期は、創業120周年記念配当 1株あたり +1円を実施

■ 1株あたり配当推移 (円)



	12/3期	13/3期	14/3期	15/3期	16/3期計画
当期純利益<単体>(百万円)	1,743	2,364	2,186	3,181	3,100
配当金総額(百万円)	875	875	875	875	1,010
配当性向<単体>(%)	50.2	37.0	40.0	27.5	32.6
配当利回り(%)	3.27	2.90	2.81	2.36	



*MimicMike*  
©1987, 2015 SANRIO CO.,LTD.  
APPROVAL No.G553987